

ア行

青木美奈「過去の王にして未来の王 トマス・マロリーとアーサー王の墓碑銘」『文学研究論集』
6号(白百合女子大学言語・文学研究センター、2006)7-16

青山吉信『アーサー伝説 歴史とロマンスの交錯』(岩波書店、1985)

赤沢友紀「Arthurian LegendsにおけるMerlinの果たす役 Sir Thomas Maloryの*Le Morte Darthur*
を中心にして」『試論』35号(駒沢大学大学院英文学研究会、2008)11-19

Agari, Manabu, 'Elaine's Red Sleeve and her Character', *Phoenix*, 41(広島大学文学研究科大学院生英
文学会、1994)23-38

-----, 'Two Phases in Mador's Disposition', *ERA*, Vol. 12, No. 1(広島英語研究会、1994)1-16

秋篠憲一「聖杯探求におけるLancelotの告白」『同志社大学英語英文学研究』28号(同志社大学
人文学会、1982)35-53

「*Le Morte Darthur*における“The Healing of Sir Urry”の一解釈」『主流』43号(同志社大学人
文学会、1982)1-20

「MaloryにおけるGuinevere」『同志社大学英語英文学研究』43号(同志社大学人文学会、
1987)1-19

「“The Kynge Had a Demyng of Hit” Arthurと妻の不倫」『同志社大学英語英文学研究』81/82
号(同志社大学人文学会、2008)1-23

安東伸介、岩崎春雄、高宮利行編『厨川文夫著作集』全2巻(金星堂、1981)

池上忠弘『ガウウェインとアーサー王伝説』(秀文インターナショナル、1988)

Ikegami, Tadahiro, <Review> Felicity Riddy, *Sir Thomas Malory* (E. J. Brill, 1987) 『英語青年』134巻
2号(研究社、1988)90-91

井村君江『アーサー王物語』(筑摩書房、1987)

<翻訳>『アーサー王物語』全5巻(筑摩書房、2004-7)(キャクストン版マロリーの翻訳)

江藤 淳『漱石とアーサー王伝説 「薤露行」の比較文学的研究』(東京大学出版会、1975)(講
談社学術文庫、1991)

奥山 保「騎士の華ランスロットは最高の騎士か」『ことばと文学 池上昌教授論文集』(英宝
社、2004)pp. 235-44

尾島庄太郎『叙事詩の研究 象徴と伝統』(北星堂、1980)

「マロリーとその時代」『英文学』12号(早稲田大学英文学会、1956) -

「マロリーとアーサー伝説」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』3号(早稲田大学大学院文
学研究科、1957) -

『イギリス文学と詩的想像:ケルト民族の稟質の展開』(増補改訂第5版)(北星堂、1972)

忍足欣四郎(訳) H. リード「マロリー論」『世界文学大系 10 中世文学』(筑摩書房、1974)pp.
431-39

カ行

加藤誉子「サー・トマス・マロリー」『中世イギリス文学入門 研究と文献案内』(雄松堂、2008)
pp. 244-52

金川英雄「アーサー王伝説の集大成者 Sir Thomas Maloryの病跡とその文学について」『聖母女子
短期大学紀要』15号(聖母女子短期大学、2002)31-38

- 河原将人「『アーサー王物語』から見た騎士と騎士道」*Oliva* 6号(関東学院大学英語英米文学会、1999) 129-51
- 厨川文夫『中世の英文学と英語』(研究社、1951)
 「アーサー王伝説」『講座比較文学 7 西洋文学の諸相』(東京大学出版会、1974) pp. 151-70
 「Sir Thomas Malory の作品」『英語青年』109 巻 9 号 (研究社、1963) 510-11
 ・厨川文子< 翻訳 > マロリー『アーサーの死』(キャクストン版マロリー抄訳) 『世界文学大系 10 中世文学集 2』(筑摩書房、1966) 『アーサー王の死』(ちくま文庫 中世文学集)(筑摩書房、1984)
- 小林淳男『中世紀における英国ロマンス』(南雲堂、1977)
- 小宮真樹子「“That is the Ryghteouse Jugemente of God”: *Le Morte Darthur* における Ettarde への懲罰」『主流』第 67 号 (同志社大学英文学会、2006) 1-15
- Komiya, Makiko, ‘The Transition of the Round Table: Shape and Significance’, *Studies in Medieval English Language and Literature*, 22 (The Japan Society for Medieval English Studies, 2007) 13-25

サ行

- 酒井 敏「中世英文学の女性像 (I)」『東京家政学院大学紀要』16 号 (東京家政学院大学、1976) 85-94
- 佐藤紀子「騎士ランズロットたちの夢：マロリーの『アーサー王の死』より」『英文学思潮』63 号 (青山学院英文学会、1990) 1-18
- 清水阿や『アーサー王伝説研究』(研究社、1966) xviii + 388 pp.
 「アーサー王とアヴァロン」『東京学芸大学紀要』(第 2 部門) 20 集 (東京学芸大学、1969) 33-44
 「理想の騎士 ゲイレス卿」『東京学芸大学紀要』(第 2 部門) 21 集 (東京学芸大学、1970) 51-60
 「サー・ディナダンの風刺」『東京学芸大学紀要』(第 2 部門) 25 集 (東京学芸大学、1974) 55-64
 「Sir Thomas Malory という人」『英米文学論集』7 巻 (大東文化大学英文学会、1975) 40-54
 「サー・ランズロット (Sir Launcelot) - 『アーサー王一代記』における」『大東文化大学紀要』14 号 (大東文化大学、1976) 1-16
 「二・三の端役的人物」『英米文学論叢』8 巻 (大東文化大学英文学会、1977) 1-12
 「『ル・モルト・ダーサー』の構成について」『大東文化大学紀要』15 号 (大東文化大学、1977) 89-106
 「サー・トマス・マロリの世界」(1) 『大東文化大学紀要』16 号 (大東文化大学、1978) 153-170
 「騎士モードレド (Mordred) の悲劇」『大東文化大学紀要』(人文科学) 17 号 (大東文化大学、1979) 1-14
 「『モルト・ダーサー』(*Morte d'Arthur*) における森と泉」『英米文学論叢』10 号 (大東文化大学、1979) 1-15
 「聖杯の物語 トマス・マロリ『アーサー王の死』における」『大東文化大学紀要』(人文科学) 20 号 (大東文化大学、1982) 267-283
 「トリストラムとイソウドの物語 サー・トマス・マロリ『アーサーの死』における」『大東文化大学紀要』(人文科学) 21 号 (大東文化大学、1983) 157-172
 「騎士ガーウェインの軌跡」『大東文化大学紀要』(人文科学) 22 号 (大東文化大学、1984) 235-50
 「17 世紀におけるアーサー王伝説文学」『東京学芸大学紀』(第 2 部門、人文科学編) 18 号 (東

- 京学芸大学、1967) 75-88
- 四宮 満『アーサー王の死 トマス・マロリーの作品構造と文体』(法政大学出版局、1991)
『滅びのシンフォニー トマス・マロリーの世界』(法政大学出版局、1998)
- 白井英充子「最後の悲劇における国王と騎士：アーサー王とランスロットの場合」『成城英文学』18号(成城大学、1994) 65-84
- 小路邦子「マロリーにおけるアーサーとマルク 『トリストラム』の意義について」『成城文芸』113・114 合併号(成城大学、1985) 165-185
「マロリーにおける剣のモチーフ」『成城英文学』10号(成城大学、1988) 1-19
「森の挑戦状 緑の騎士の斧と女神モルガン」『Sententiae 水鳥喜喬教授還暦記念論文集』(北斗書房、1995) pp. 113-120
「文武両道の騎士を求めて From Tristan to Tristram」『Medieval Heritage 中世英文学の伝統』(雄松堂書店、1997) pp. 529-542
「モードレッド懐胎をめぐって 『メルラン』、『続メルラン』、マロリー」『人文研紀要』49号(中央大学人文科学研究所、2003) 299-310
「The Fair Unknown としてのハリー・ポッター アーサー王伝説との関わり」『人文研紀要』52号(中央大学人文科学研究所、2004) 43-62
「ガウェインの誕生と幼年時代」『剣と愛と 中世ロマニアの文学』中央大学人文科学研究所研究叢書 34(中央大学出版部、2004) pp. 93-116
「騎士の教育・騎士の教科書」『言語文化』22号(明治学院大学言語文化研究所、2005) 26-37
「エクスカリバーの変遷」『続 剣と愛と 中世ロマニアの文学』中央大学人文科学研究所研究叢書 40(中央大学出版部、2006) pp. 69-91
「王権とマロリー」『テキストの言語と読み 池上恵子教授記念論文集』(英宝社、2007) pp. 404-409
「アーサー王伝説の世界へ」『ふくろう通信』6号(スピカ、2007) 66-70
「ハリー・ポッターとアーサー王」『ふくろう通信』7号(スピカ、2008) 46-49
「ガウェイン その毀誉褒貶」Round Table, 22(慶応義塾大学高宮研究会、2008) 85-95
「現代における中世」『中世イギリス文学入門 研究と文献案内』(雄松堂、2008) pp. 370-77
- Shoji, Kuniko, 'The Failed Hero: Mordred, Gawain's Brother', *Poetica*, 38 (Shubun International, 1993) 53-63
- Suzuki, Tetsuya, 'The Death of Arthur: Sir Thomas Malory's View of Tragedy' 『高知女子大学紀要(人文社会科学編)』29巻(高知女子大学、1981) 13-23

夕行

- 高木眞佐子「ナルニア国物語とマロリーの *Le Morte Darthur* The Voyage of the Dawn Treader における聖杯のアレゴリー」『杏林大学外国語学部紀要』18号(杏林大学外国語学部、2006) 195-211
「印刷家ウィリアム・キャクストンの政治意識 『イングランド年代記』刊行をめぐって」『続 剣と愛と 中世ロマニアの文学』中央大学人文科学研究所研究叢書 40(中央大学出版部、2006) pp. 41-67
- 高瀬ふみ子「Thomas Malory 著『アーサー王の死』における Dynadan の役割」『神戸女学院大学論集』35巻2号(神戸女学院大学研究所、1988) 1-11
- 高橋 勇「中世主義の系譜」『中世イギリス文学入門 研究と文献案内』(雄松堂、2008) pp. 353-69
- 高宮利行「Malory の Tale of Gareth その超自然的人物について」『芸文研究』32巻(慶應義塾大学芸文学会、1973) 146-70

「Malory の Tale of Gareth その構造・意味・性格描写」『芸文研究』34 卷（慶應義塾大学芸文学会、1975）113-26

「テューダー朝におけるアーサー王熱と『アーサーの死』」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』11 号（慶應義塾大学、1979）145-64

（訳）リチャード・バーバー『アーサー王 その歴史と伝説』（東京書籍、1983）

「シャロットの女の図像学・序説」『言語文化』3 号（明治学院大学、1985）71-81

・不破有理（共訳）マーク・ジルアード『騎士道とジェントルマン ヴィクトリア朝社会精神史』（三省堂、1986）

「父親を知らぬ英雄たち 若い騎士の教科書としてのアーサー王ロマンス」『ユリイカ 特集アーサー王伝説』23 卷 10 号（青土社、1991）172-81

『アーサー王伝説万華鏡』（中央公論社、1995）

『アーサー王物語の魅力 ケルトから漱石へ』（秀文インターナショナル、1999）

「アーサー王ロマンス」『中世イギリス文学入門 研究と文献案内』（雄松堂、2008）pp. 117-23

・松田隆美編『中世イギリス文学入門 研究と文献案内』（雄松堂、2008）

Takamiya, Toshiyuki, 'Love and Transgression in Soseki's Story of the Maid of Ascolat', in *Medievalitas: Reading the Middle Ages*, ed. Piero Boitani and Anna Torti (D. S. Brewer, 1996) pp. 139-51

玉木雄三「スタインベックとマロリー 『アーサー王と気高い騎士たちの行伝』をめぐって」『堺女子短期大学紀要』35 号（堺女子短期大学、2000）35-47

「スタインベックとマロリー 『アーサー王と気高い騎士たちの行伝』をめぐって（その2）」

『堺女子短期大学紀要』38 号（堺女子短期大学愛泉学会、2003）37-47

「<ノート>明治後期とアーサー王物語：ハーン、ロレンスとマロリー」『堺女子短期大学紀要』32 号（堺女子短期大学、1997）61-74

多ヶ谷有子「サー・トマス・マロリー 『アーサー王物語』における聖杯探求の意味と役割」*Metropolitan*, 19 卷（東京都立大学英文学会、1975）99-119

Tagaya, Yuko, 'A Preliminary Essay on the "Quest of the Holy Grail" of Thomas Malory', *Metropolitan*, 18 (Tokyo Metropolitan University, 1974) 10-29

ナ行

中島邦男「マロリー研究序説 アーサー伝説の起源と発達」『日本大学人文科学研究所研究紀要』8 号（日本大学人文科学研究所、1966/7）245-74

ほか<翻訳>『アーサー王物語』全 2 卷（青山社、1995）（ウィンチェスター版マロリーの翻訳）

西納春雄「Gawain の死をめぐる一考察 Malory の独創性について」*Core* 10 号（同志社大学英文学会、1981）15-34

「Malory の Bors その脇役としての存在を考える」『同志社大学英語英文学研究』39 号（同志社大学人文学会/同志社大学人文学会、1985）1-36

「Vegetius の伝統と Malory」『中世英文学への巡礼の道 齊藤勇教授還暦記念論文集』（南雲堂、1993）pp. 427-44

Nitta, Hiromasa, 'Chivalry in *Morte Darthur* and *The Faerie Queene*' 『神戸外国語大学論叢』（神戸外国語大学、1969）43-54

野口俊一「マロリーとシャロットの乙女エレイン」『言語文化』3 号（明治学院大学、1985）66-70

Noguchi, Shunichi, 'Malorian Knights: Their Humility and Patience', *Geardagum* X (Denver: Society for New Language Study, 1989) 19-27

八行

Haruta, Setsuko, 'The Goddess Guinevere vs. the Arthurian *Comitatus*' 『ことばと文学 池上昌教授論文集』(英宝社、2004) pp. 245-55

福江千帆「トーマス・マロリーにみる死の受容 剣と杯から読み解くアーサー王物語」『神奈川大学大学院言語と文化論集』10号(神奈川大学大学院外国語学研究科、2003)75-106

二村宏江「MaloryのLancelotにおける恋愛と宗教の和解について」『季刊英文学』5巻1号(あぼろん社、1967)35-50

「MaloryにおけるCourtly Love Lancelotの曲折した愛について」『人文学』115号(同志社大学人文学会、1969)1-24

「'Trew loue'と'vertuose loue」『主流』31号(同志社大学英文学会、1969)1-16

不破有理「ヴィクトリア朝の受難者 アーサー王の息子モードレッド」『ユリイカ 特集アーサー王伝説』23巻10号(青土社、1991)89-97

高宮利行・ (共訳)マーク・ジルアード『騎士道とジェントルマン ヴィクトリア朝社会精神史』(三省堂、1986)

「偶然の悲劇 トマス・マロリー『アーサーの死』における *unhappy* とジョン・リドゲイト」『言語文化』22号(明治学院大学、2005)38-51

「正義の戦い」とは? 『頭韻詩アーサーの死』再考』『続 剣と愛と 中世ロマニアの文学』中央大学人文科学研究所研究叢書40(中央大学出版部、2006)pp. 3-39

マ行

宮田武志「アーサー王伝説」『英米文学史講座1 中世』(研究社、1962)pp. 128-49

向井 毅「テューダー朝における『アーサーの死』の受容と変容」『長崎大学教育学部人文科学研究報告』34巻(長崎大学教育学部、1985)49-58

「『アーサーの死』とドウ・ウォードの挿入」『英語青年』133巻12号(研究社、1988)2-6

「マロリーにはじまるアーサー王」『ユリイカ 特集アーサー王伝説』23巻10号(青土社、1991)182-89

「マロリーが描いたランスロット」『鳴門教育大学研究紀要(人文・社会科学編)』10巻(鳴門教育大学、1995)45-50

「アーサー王伝説に登場する女性たち アストラットの乙女エレイン考」『文学における女性表象』(福岡女子大学文学研究会、2004)pp. 89-101

「キャクストン」『中世イギリス文学入門 研究と文献案内』(雄松堂、2008)pp. 253-61

Mukai, Tsuyoshi, 'De Worde's Displacement of Malory's Secularization', in *Arthurian and Other Studies Presented to Shunichi Noguchi*, ed. Takashi Suzuki and Tsuyoshi Mukai (D. S. Brewer, 1993) pp. 179-87

森ユキエ「マロリー作『アーサー王の死』におけるアーサーの夢」『主流』68・69号(同志社大学英文学会)23-40

「『円卓の騎士団』その栄光と没落:マロリー「トリストラム卿の書」より」『比較文化研究』67号(日本比較文化学会、2005)21-29

Mori, Yukie, 'The Dragon and the Serpent in Arthur's Dreams in Malory's *Le Morte D'Arthur*', *Studies in Medieval English Language and Literature*, 23 (The Japan Society for Medieval English Studies, 2008) 55-66

ヤ行

- 山口恵理子「林檎と眠りとランスロット」『ユリイカ 特集アーサー王伝説』23 巻 10 号(青土社、1991) 98-109
- Yamaguchi, Eriko, 'Osculatory Obsession: Rossetti's Treatment of Arthurian and Dantesque Subjects in 1855', *Studies in Medieval English Language and Literature*, 6 (The Japan Society for Medieval English Studies, 1991) 37-58
- , 'The Defence of Lancelot: Rossetti's Quest for "God's Graal"', *Studies in Medievalism*, 4 (Boydell & Brewer, 1992) 235-46
- 吉田新吾「マロリーのランスロット」『人文研究』(大阪市立大学文学部、1965) 123-31
- 吉田瑞穂「Sir Thomas Malory における聖杯探求」『成蹊人文研究』 2 号 (成蹊大学、1994) 1-24

ワ行

- 渡辺征児「マロリーの『アーサー王の死』一読」『天理大学学報』33 巻 2 号 (天理大学、1982) 54-76